

保革対立軸と新しい対立軸

—— 愛媛県内3都市意識調査より ——

市 川 虎 彦

1 問題の設定

これまで、政党や個人の政治的立場を、保守（右）－革新（左）の軸の上に位置づけて認識することがふつうであった。では、この「保守－革新」という対立を形成する意識上の内容物は何なのであろうか。蒲島郁夫・竹中佳彦は、日本の政治史をたどる中で、時の経過にしたがって、この保革対立を構成する争点に変化していることを指摘している¹⁾。敗戦直後から1960年代までは「①「革新」＝戦前体制の否定・戦後民主主義の肯定→安保反対→再軍備反対→護憲、②「保守」＝戦前体制への回帰→安保賛成→再軍備賛成→改憲」という対立構図であったとする。

1960年以降、自民党政府が所得倍増計画を掲げ経済成長を優先させる路線に転換し、実際に高度経済成長が為し遂げられていく過程で、前述の構図は後景に退くようになったとする。経済成長は福祉制度の整備とともに公害問題を招き寄せた。また、福祉や公害に関わる住民運動等も生じ、政治参加の拡充も政治的争点の1つとして意識されるようになる。こうしたことから、蒲島らは70年代に入って新しい対立軸が現れたと主張する。すなわち、「①「革新」＝福祉→大きな政府→政府の経済介入重視→平等尊重→環境保護→政治参加、②「保守」＝自助→小さな政府→自由市場重視→自由尊重→効率・経済成長優先→行政への委任」という対立構図が新たに形成されたというのである。その結果、戦前体制・安全保障をめぐる対立軸と福祉・参加・平等をめぐる対立軸の

2つの保革対立軸が日本の有権者の間に形成されたとする。

また、1960年代末からの変化については、「保守－革新」とは異なる別の対立軸の出現なのだと捉える観点もある。環境運動やフェミニズム運動、学生運動、反核平和運動、少数者の権利擁護の運動など、従来の政治対立とは違う争点を追求する諸運動が現れてきたことに特に着目する論者が現れたのである。これらの新しい運動は、1980年代に入ると、ドイツをはじめとする西欧諸国における環境政党の進出に帰結することとなる。これをして、資本主義（保守政党）－社会主義（社民政党）という対立図式に替わる「新しい政治」の形成と考えられたのである。

同時期に、一方で保守の側にも、福祉国家の形成による国家財政の危機と経済の停滞を打破しようという新しい動きが現れてくる。この動向は、新保守主義ないしは新自由主義と呼称されている。すなわち、国家の財政支出を抑制することによって「小さな政府」を目指す一方、規制緩和や民営化の推進によって民間の活力を活性化しようとするものである。

これらの変化を捉えて、新しい政治対立の構図を提示する試みがなされるようになる。例えば、日本では小野耕二が、ポグントケ²⁾ やキッチェルト³⁾ の議論を受容しつつ、新しく出現した政治的対抗関係を図式化している⁴⁾。ここでは従来の「保守－革新」（市場原理に依拠するかどうか）に加えて、「大きな政府－小さな政府」という対立軸が加えられている。従来の保守主義は「保守－大きな政府」という組み合わせで示され、同様に従来の社会民主主義は「革新－大きな政府」という組み合わせだと理解される。これに対して新保守主義は「保守－小さな政府」の組み合わせと解される。環境政党は「左翼リバータリアン」という呼称のもと、「革新－小さな政府」という位置づけを与えられている。

日本でも、1980年代に中曽根内閣のもとで、新保守主義的政策が追求された（民営化・民間活力の導入・規制緩和など）。さらに1990年代に入ると、「自民党－社会党」という55年体制が崩壊し、政党の離合集散が展開されるようになる。保守－革新の対抗軸が曖昧なものとなって現在に至っている。そこで

前述のように、この新しい政治状況を把握しようという試みが現れてきているのである。

そこで今回、新しい政治状況を具体的に捉えようと、愛媛県内の有権者を対象にした政治意識に関する意識調査を試みた。調査は、地域特性が愛媛県内の中でも異なる東予（愛媛県東部）、中予（県中部）、南予（県西南部）から代表的な都市を1つずつ選んで行った。すなわち、新居浜市（東予）、松山市（中予）、宇和島市（南予）である⁵⁾。3市の人口は、合計すると愛媛県人口のほぼ半分を占めることになる。調査は、松山市・新居浜市・宇和島市の20歳から80歳までの有権者を対象にした。各市の選挙人名簿から系統標本抽出法により、それぞれ1,000名ずつの調査対象者を抽出した。2006年10月25日から11月7日までの間に、構造化された調査票を用いて郵送調査にて実施した。回収できた調査票の数と回収率は、以下のとおりである。松山市375票（回収率37.5%）、新居浜市363票（同36.3%）、宇和島市396票（同39.6%）であった。

この調査結果をもとに、まず次節で保守－革新という政治的な対立軸が支持政党とどのような関係にあるのかを示す。次いで、保革対立軸の内容を明らかにするために、伝統的な政治争点である安全保障の問題等がいまだに保革を分ける基点となっているのかどうかを確認する。最後に、新しい政治的な対立軸と考えられる「大きな政府－小さな政府」「経済成長－環境保護」「参加－委任」というようなものと、従来の保革対立軸がどのような関係にあるのか、また新しい対立軸と政党支持はどのような関係にあるのかを検討する。なお、次節以降のクロス集計表の下部に付した「 $p < 0.01$ 」はカイ2乗検定の結果、1%水準で有意であったことを、「n. s.」は有意ではなかったことを示している。

2 保革自己認識と支持政党

表1は、各市ごとに集計した「支持する政党」の回答結果である。自民党の支持率が45%～50%とかなり高いことがわかる。これは、調査時点が安倍内閣発足後すぐのときで、内閣支持率が高かったことの影響もあると考えられ

る。

民主党支持率は、3都市とも10%台後半で、同じ時期に行われている全国的な規模の世論調査で示された結果よりもやや高い程度である。公明党支持率は3%台で、これもほぼ全国調査と同様である。全国規模の調査では、もはや1%程度の支持率しか得られなくなっている社民党であるが、愛媛県内では松山市と新居浜市において、いまだに一定程度の支持者がいることがうかがわれる結果となっている。

表2は、調査対象者に自らを保守的だと思うか、革新的だと思うか尋ねた結

表1 支持政党～単純集計表 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
自 民 党	183 (48.8)	166 (45.7)	199 (50.3)
民 主 党	59 (15.7)	72 (19.8)	68 (17.2)
公 明 党	12 (3.2)	12 (3.3)	18 (4.5)
共 産 党	9 (2.4)	5 (1.4)	10 (2.5)
社会民主党	20 (5.3)	15 (4.1)	7 (1.8)
そ の 他	3 (0.8)	3 (0.8)	3 (0.8)
支持政党なし	84 (22.4)	84 (23.1)	81 (20.5)
無 回 答	5 (1.3)	6 (1.7)	10 (2.5)
合 計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

表2 保革自己認識～単純集計表 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
かなり保守的	13 (3.5)	8 (2.2)	19 (4.8)
保 守 的	87 (23.2)	80 (22.0)	101 (25.5)
やや保守的	135 (36.0)	140 (38.6)	139 (35.1)
やや革新的	55 (14.7)	52 (14.3)	50 (12.6)
革 新 的	12 (3.2)	15 (4.1)	15 (3.8)
かなり革新的	10 (2.7)	5 (1.4)	2 (0.5)
わからない	58 (15.5)	57 (15.7)	57 (14.4)
無 回 答	5 (1.3)	6 (1.7)	13 (3.3)
合 計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

果である。都市間の差異はほとんどみられない。「やや保守的」と回答する人が最も多く、「かなり保守的」「保守的」「やや保守的」を合計すると6割を超える程度になる。逆に、自らを革新的（「かなり革新的」+「革新的」+「やや革新的」）と認識している人は全体の2割程度である。15%程度の人が「わからない」と回答している。

表3～表5は、政党別にみた支持者の保革分布を、都市ごとに表したものである。予想されるとおり、自民党支持者では自分を保守的だと認識している者の比率が高い。都市によって10ポイント程度の違いがあるが、7割5分から8割5分の人が保守的だと考えている。

民主党支持者では、自民党支持者よりも革新的と認識している者の割合がかなり多くなっている。しかし、民主党支持者の間で最も多い回答は「やや保守的」である。「支持政党なし」と回答した人の保革分布は、回答者全体の回答分布とほとんど同じ比率となっている。そしてまた、自民党支持者と民主党支持者のちょうど中間の保革分布を示している。

さらに、3都市の回答者の保革自己認識についてそれぞれ、「かなり保守的」に3点、「保守的」に2点、「やや保守的」に1点、「やや革新的」に－1点、「革新的」に－2点、「かなり革新的」に－3点をあたえて、支持政党別に

表3 支持政党×保革自己認識—松山市 [人(%)]

	保守的	やや保守的	やや革新的	革新的	わからない
自 民 党	70 (38.5)	68 (37.4)	17 (9.3)	5 (2.7)	22 (12.1)
民 主 党	3 (5.2)	25 (43.1)	18 (31.0)	7 (12.1)	5 (8.6)
公 明 党	3 (27.3)	2 (18.1)	2 (18.2)	0 (0.0)	4 (36.4)
共 産 党	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	6 (66.7)
社会民主党	0 (0.0)	8 (40.0)	6 (30.0)	5 (25.0)	1 (5.0)
そ の 他	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)
支持政党なし	23 (27.4)	30 (35.7)	9 (10.7)	5 (6.0)	17 (20.2)
合 計	100 (27.2)	134 (36.5)	55 (15.0)	22 (6.0)	56 (15.3)

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。

表4 支持政党×保革自己認識—新居浜市 [人(%)]

	保守的	やや保守的	やや革新的	革新的	わからない
自 民 党	71 (43.3)	66 (40.2)	6 (3.7)	0 (0.0)	21 (12.8)
民 主 党	4 (5.6)	27 (37.5)	24 (33.3)	11 (15.3)	6 (8.3)
公 明 党	0 (0.0)	4 (33.3)	5 (41.7)	1 (8.3)	2 (16.7)
共 産 党	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)
社会民主党	1 (6.7)	1 (6.7)	7 (46.7)	3 (20.0)	3 (20.0)
そ の 他	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)
支持政党なし	12 (14.3)	38 (45.2)	9 (10.7)	3 (3.6)	22 (26.2)
合 計	88 (24.8)	138 (38.9)	52 (14.6)	20 (5.6)	57 (16.1)

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。

表5 支持政党×保革自己認識—宇和島市 [人(%)]

	保守的	やや保守的	やや革新的	革新的	わからない
自 民 党	91 (47.4)	74 (38.5)	9 (4.7)	2 (1.0)	16 (8.3)
民 主 党	8 (11.9)	29 (43.3)	18 (26.9)	6 (9.0)	6 (9.0)
公 明 党	2 (11.1)	7 (38.9)	1 (5.6)	2 (11.1)	6 (33.3)
共 産 党	1 (10.0)	0 (0.0)	5 (50.0)	3 (30.0)	1 (10.0)
社会民主党	1 (14.3)	1 (14.3)	3 (42.9)	0 (0.0)	2 (28.6)
そ の 他	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
支持政党なし	13 (16.0)	27 (33.3)	13 (16.0)	3 (3.7)	25 (30.9)
合 計	118 (31.2)	139 (36.8)	49 (13.0)	16 (4.2)	56 (14.8)

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。

平均点を算出してみた。その結果が表6である。支持政党なし層を真ん中にはさんで、保守側に自民党、革新側に民主党が対峙している様子がわかる。しかし、自民党と社会党が2大政党として対立していた80年代以前のように保革対立とは必ずしもいえない。民主党の位置は中道的で、回答者全体が保守よりになった上で、保革対立軸上の対抗関係をもっている。

表6 3都市回答者の党派別保革自己認識得点

	松山市	新居浜市	宇和島市
自由民主党	1.17	1.45	1.45
民主党	-0.04	-0.20	0.28
支持政党なし	0.85	0.77	0.64
合計	0.77	0.76	0.96

注)「合計」には、公明党・共産党・社民党支持を含む。

3 保革自己認識と伝統的争点

それでは、保守－革新という対立軸の内容はどのようなものなのであるか。保守－革新を分かť伝統的な争点は、第1節で言及した蒲島らの議論で指摘されている通り、安全保障と外交をめぐるものである。

そこで、「あなたは、憲法9条（戦争放棄・戦力の不保持）の改正に対して賛成ですか、反対ですか」「あなたは、日本国内にアメリカ軍が駐留することに賛成ですか、反対ですか」という2つの質問を行った。またそれにつけ加えて、蒲島らがあげている「戦前体制への回帰－戦前体制の否定」という争点に関して、「あなたは、日本に天皇制が必要だと思いますか、それとも不必要だと思いますか」と、天皇制に関する質問もした。

実際に、このような論点によって、「保守－革新」が分岐しているのかどうかみてみようと思った。もしそうならば、憲法9条に関しては、保守を自認する人に改憲論者が多く、革新を自認する人に護憲論者が多いと考えられる。米軍の駐留についても、革新では反対が多いと予想される。逆に保守を自認する人々に多いのは、日米安保体制の維持に賛成という立場だと思われる。天皇制に関しては、日本の伝統を守るという点で、保守に必要とする人が多いであろう。

憲法改正について、3市の単純集計をみると、「賛成」「反対」「どちらともいえない」がほぼ3分の1ずつに分かれるという結果になった。かつてのような改憲に対するアレルギーは、愛媛県では弱まってきているとしてよいだろう。

表7 憲法改正に関する意識～単純集計 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
改正に賛成	50 (13.3)	66 (18.2)	58 (14.6)
改正にやや賛成	62 (16.5)	55 (15.2)	87 (22.0)
どちらともいえない	118 (31.5)	122 (33.6)	122 (30.8)
改正にやや反対	40 (10.7)	33 (9.1)	29 (7.3)
改正に反対	100 (26.7)	84 (23.1)	92 (23.2)
無回答	5 (1.3)	3 (0.8)	20 (5.1)
合 計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

う。ただし、「賛成」と「反対」の中身をみると、賛成の側は「やや賛成」と回答する比率が高い。逆に「反対」の側は、明確に「反対」と回答する比率の方が高いのが特徴となっている。

この質問と保革自己認識に関して、3市でクロス集計を行った結果が、表8～表10である。予想通り保守に改憲論者が多い傾向が読み取れる。ただし新居浜市のみ、カイ2乗検定の結果、保革自己認識と憲法改正の賛否との間に関連がみられなかった。

米軍の駐留に関しては、松山市では反対論が賛成論を10ポイントあまり上

表8 保革自己認識×憲法改正に関する意識—松山市 [人(%)]

	賛 成	どちらともいえない	反 対
保 守 的	46 (46.4)	29 (29.3)	24 (24.3)
やや保守的	38 (28.1)	46 (34.1)	51 (37.8)
やや革新的	12 (22.3)	13 (24.1)	29 (53.7)
革 新 的	8 (36.4)	4 (18.2)	10 (45.4)
わからない	4 (7.0)	26 (45.6)	24 (42.1)
合 計	111 (30.2)	118 (32.2)	138 (37.6)

$p < 0.01$

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。
「賛成」は、「賛成」と「やや賛成」を統合している。
「反対」は、「反対」と「やや反対」を統合している。

表9 保革自己認識×憲法改正に関する意識—新居浜市 [人(%)]

	賛成	どちらともいえない	反対
保守的	38 (43.6)	30 (34.5)	19 (21.8)
やや保守的	50 (35.7)	46 (32.9)	44 (31.4)
やや革新的	11 (21.2)	15 (28.8)	26 (50.0)
革新的	3 (15.0)	7 (35.0)	10 (50.0)
わからない	15 (26.8)	23 (41.1)	18 (32.2)
合計	117 (32.9)	121 (34.1)	117 (33.0)

n. s.

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
 「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。
 「賛成」は、「賛成」と「やや賛成」を統合している。
 「反対」は、「反対」と「やや反対」を統合している。

表10 保革自己認識×憲法改正に関する意識—宇和島市 [人(%)]

	賛成	どちらともいえない	反対
保守的	53 (44.9)	35 (29.7)	30 (25.4)
やや保守的	57 (41.3)	41 (29.7)	40 (39.0)
やや革新的	16 (32.7)	8 (16.3)	25 (51.0)
革新的	4 (23.5)	4 (23.5)	9 (53.0)
わからない	11 (19.3)	30 (52.6)	16 (28.1)
合計	141 (37.2)	118 (31.1)	120 (31.7)

p<0.01

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
 「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。
 「賛成」は、「賛成」と「やや賛成」を統合している。
 「反対」は、「反対」と「やや反対」を統合している。

回った。新居浜市と宇和島市では賛否相半ばする結果となった。

この質問と保革自己認識に関して、3市でクロス集計を行った結果が表12である。基本的には、保守に改憲論者が多い。しかし、宇和島市ではカイ2条検定の結果、保革自己認識と米軍駐留の賛否との間に関連がみられなかった。また松山市では、「やや革新的」と自己評価する人の方が、「やや保守的」と自己評価する人よりも米軍駐留に賛成する人が多く、逆転現象が起こっている。

表 11 米軍駐留に関する意識～単純集計 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
賛成	31 (8.3)	53 (14.6)	41 (10.4)
どちらかといえば賛成	134 (35.7)	120 (33.1)	143 (36.1)
どちらかといえば反対	155 (41.3)	126 (34.7)	135 (34.1)
反対	50 (13.3)	52 (14.3)	65 (16.4)
無回答	5 (1.3)	12 (3.3)	12 (3.0)
合計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

表 12 保革自己認識×米軍駐留に関する意識 [人(%)]

	松山市		新居浜市		宇和島市	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
保 守 的	61 (61.6)	38 (38.4)	50 (58.8)	35 (41.2)	64 (54.7)	53 (45.3)
やや保守的	53 (40.2)	79 (59.8)	71 (52.2)	65 (47.8)	75 (54.8)	62 (45.2)
やや革新的	28 (50.9)	27 (49.1)	22 (42.3)	30 (57.7)	21 (42.0)	29 (58.0)
革 新 的	9 (40.9)	13 (59.1)	6 (30.0)	14 (70.0)	3 (17.6)	14 (82.4)
わからない	13 (22.8)	44 (77.2)	20 (37.7)	33 (62.3)	19 (34.6)	35 (65.4)
合 計	164 (44.9)	201 (55.1)	169 (48.8)	177 (51.2)	182 (48.4)	194 (51.6)

p<0.01

p<0.01

n. s.

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。
「賛成」は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を統合している。
「反対」は、「反対」と「どちらかといえば反対」を統合している。

天皇制に関しては、3市とも「必要」とする人が半数程度である。また、「不必要」とする人は、どこの市でも少なく10%を少し上回る程度であった。

天皇制に対する意識と保革自己認識に関して、3市でクロス集計を行った結果が、表14～表16である。予想通り「必要」だと回答した人は、保守的だと回答した人が多い。3市ともに、カイ2条検定の結果、1%水準で有意であった。

以上のように、「保守－革新」という対立軸を構成する要素として、あいかわらず安全保障や天皇制に関する意識が関係していることがわかった。「保守－革新」という軸は、まだ政治的な意味をもった対立軸だといえる。

表 13 天皇制に関する意識～単純集計 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
必要である	186 (49.6)	177 (48.8)	207 (52.3)
どちらともいえない	136 (36.3)	129 (35.5)	139 (35.1)
必要でない	46 (12.3)	49 (13.5)	41 (10.4)
無回答	7 (1.9)	8 (2.2)	9 (2.3)
合計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

表 14 改革自己認識×天皇制に関する意識－松山市 [人(%)]

	必要	どちらともいえない	不必要
保守的	61 (62.6)	30 (30.3)	7 (7.1)
やや保守的	77 (57.0)	49 (36.3)	9 (6.7)
やや革新的	16 (30.2)	30 (56.6)	7 (13.2)
革新的	7 (31.8)	4 (18.2)	11 (50.0)
わからない	24 (42.1)	22 (38.6)	11 (19.3)
合計	186 (50.8)	135 (36.9)	45 (12.3)

p<0.01

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。

表 15 改革自己認識×天皇制に関する意識－新居浜市 [人(%)]

	必要	どちらともいえない	不必要
保守的	66 (75.9)	16 (18.4)	5 (5.7)
やや保守的	66 (47.1)	57 (40.7)	17 (12.1)
やや革新的	20 (39.2)	24 (47.1)	7 (13.7)
革新的	8 (40.0)	4 (20.0)	8 (40.0)
わからない	17 (30.4)	28 (50.0)	11 (19.6)
合計	177 (50.0)	129 (36.4)	48 (13.6)

p<0.01

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。

表 16 保守自己認識×天皇制に関する意識—宇和島市 [人(%)]

	必要	どちらともいえない	不必要
保守的	78 (65.5)	34 (28.6)	7 (5.9)
やや保守的	69 (50.0)	60 (43.5)	9 (6.5)
やや革新的	20 (40.8)	19 (38.8)	10 (20.4)
革新的	8 (47.1)	3 (17.6)	6 (35.3)
わからない	27 (47.4)	21 (36.8)	9 (15.8)
合計	202 (53.2)	137 (36.1)	41 (10.8)

p<0.01

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。

4 新しい対立軸

これまで検討してきた保守—革新という対立軸とは異なる政治的な対立軸は存在するのであろうか。また、その対立軸と政党支持はどのような関係にあるのであろうか。蒲島らが述べるような「大きな政府—小さな政府」「環境保護—経済成長優先」「政治参加—行政への委任」というような新しい対立軸は、実際のところ保守—革新という対立軸とどのような関係にあるのであろうか。また、これら新しい対立軸と政党支持とはどのような連関をもっているのか、あるいはまだ連関をもたずにいるのか。このような問題意識から、「あなたのお考えは、次の A, B, どちらの意見に近いですか」という形式で3つの質問を行った。

A 「増税してでも、福祉などの公共サービスを充実させるべきである」

B 「増税してまでも、福祉などの公共サービスを充実させるべきではない」

これは、高福祉高負担の福祉国家の方が望ましいのか、それとも政府の役割を必要最低限度にとどめて民間の活力と効率性に委ねる方が望ましいのかという点を尋ねたものである。いわゆる「大きな政府」がいいのか、「小さな政府」

がいいのかという選択である。

- A「豊かで平和な社会を実現するために、経済成長を追求すべきである」
- B「環境問題の解決と人類の生存のために、経済成長を抑制すべきである」

この選択は、大きな政治問題として認識されつつある環境問題に対してどのような政治的態度をとっているかということである。すなわち、経済成長優先か、環境保護かという対立軸である。

- A「政治に対していたずらに批判するよりも、政府のやり方に国民が協力することの方が大切である」
- B「政府のやり方に協力するよりも、政治に対して積極的に意見を述べることの方が大切である」

最後の質問は、政治参加への志向性をたずねてみた。「Bに近い」「どちらか」というと「Bに近い」を選択した人は、政治参加への志向性が強いということで「参加」志向とした。「Aに近い」「どちらか」というと「Aに近い」を選択した人は、政府と協力する姿勢をもっているということで「協力」志向としてみた。

これらの対立軸は、「保守－革新」とどのような関係にあるのであろうか、また相互に関連があるのであろうか、それとも独立に存在するのであろうか。このことを確かめるために、各市で四つの質問相互にカイ2乗検定を行ってみた。表17～表19に、その結果のみを示した。

3市に共通していたのは、「保守－革新」に関する自己認識と「経済成長－環境」、「大きな政府－小さな政府」と「経済成長－環境」が独立であるということである。逆に、共通して関連があるとされたのは、「保守－革新」自己認識と「協力－参加」である。保守的な人で、政府に協力すべきだと考える人が

表 17 対立軸のカイ 2 乗検定の結果～松山市

	大きな－小さな	経済－環境	協力－参加
保守－革新	n. s.	n. s.	p<0.01
大きな政府－小さな政府	－	n. s.	n. s.
経済成長－環境	－	－	p<0.01
協力－参加	－	－	－

表 18 対立軸のカイ 2 乗検定の結果～新居浜市

	大きな－小さな	経済－環境	協力－参加
保守－革新	p<0.01	n. s.	p<0.01
大きな政府－小さな政府	－	n. s.	p<0.01
経済成長－環境	－	－	n. s.
協力－参加	－	－	－

表 19 対立軸のカイ 2 乗検定の結果～宇和島市

	大きな－小さな	経済－環境	協力－参加
保守－革新	p<0.01	n. s.	p<0.01
大きな政府－小さな政府	－	n. s.	n. s.
経済成長－環境	－	－	p<0.01
協力－参加	－	－	－

増える傾向があった。革新的な人ほど政治参加を求める傾向があり、この参加に関する軸は保革に重なっているようである。

「保守－革新」自己認識と「大きな政府－小さな政府」は、新居浜市と宇和島市では1%水準で有意との結果となったが、表20に示したとおり、その関係は必ずしも明瞭ではない。

次に、それぞれの対立軸に対する回答結果、および政党支持との関係をみていくことにする。表21は、「大きな政府」が望ましいのか、「小さな政府」が望ましいのかを、それぞれの市でみた結果である。いずれの市においても、「大きな政府」（「Aに近い」「どちらかというとならAに近い」）を望ましいと選択する人の割合が、「小さな政府」を選択する人よりも多い。

表 20 保革自己認識×「大きな政府」-「小さな政府」[人(%)]

	新居浜市		宇和島市	
	大きな政府	小さな政府	大きな政府	小さな政府
保守的	47 (55.3)	38 (44.7)	65 (55.6)	52 (44.4)
やや保守的	85 (61.2)	54 (38.8)	92 (67.6)	44 (32.4)
やや革新的	32 (64.0)	18 (36.0)	31 (63.3)	18 (36.7)
革新的	7 (36.8)	12 (63.2)	3 (20.0)	12 (80.0)
わからない	19 (35.8)	34 (64.2)	33 (60.0)	22 (40.0)
合計	190 (54.9)	156 (45.1)	224 (60.2)	148 (39.8)

p<0.01

p<0.01

*「保守的」は、「かなり保守的」と「保守的」を統合している。
 「革新的」は、「かなり革新的」と「革新的」を統合している。
 「大きな政府」は、「Aに近い」「どちらかといえばAに近い」を統合している。
 「小さな政府」は、「Bに近い」「どちらかといえばBに近い」を統合している。

表 21 A「大きな政府」志向-B「小さな政府」志向 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
Aに近い	86 (22.9)	76 (20.9)	97 (24.5)
どちらかといえばAに近い	123 (32.8)	116 (32.0)	130 (32.8)
どちらかといえばBに近い	111 (29.6)	98 (27.0)	95 (24.0)
Bに近い	44 (11.7)	59 (16.3)	54 (13.6)
無回答	11 (2.9)	14 (3.9)	20 (5.1)
合計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

表 22 は、「Aに近い」「どちらかという A に近い」を「大きな」政府志向として、「Bに近い」「どちらかという B に近い」を「小さな」政府志向として統合した上で、各市の支持政党別の選択状況を示したものである。松山市では民主党支持層に最も「小さな」政府志向の人が多く、新居浜市と宇和島市では、自民党支持層と民主党支持層の「大きな」政府志向・「小さな」政府志向の比率はほぼ同じで、むしろ支持政党なし層において「小さな」政府志向の人が多く傾向がみられる。

このように3市の調査結果からは、自民党支持者と民主党支持者がこの対立軸にのっとなってわかれているとはいえないことがわかる。

表 22 支持政党 「大きな政府」－「小さな政府」[人(%)]

	松山市		新居浜市		宇和島市	
	大きな	小さな	大きな	小さな	大きな	小さな
自 民 党	106 (60.3)	70 (39.7)	94 (58.8)	66 (41.3)	118 (62.4)	71 (37.6)
民 主 党	30 (51.7)	28 (48.3)	42 (59.2)	29 (40.8)	41 (62.1)	25 (37.9)
支持政党なし	48 (57.8)	35 (42.2)	34 (41.4)	48 (58.5)	42 (52.5)	38 (47.6)
合 計	206 (57.0)	155 (42.9)	190 (54.9)	158 (45.1)	224 (60.4)	147 (39.6)

注)「合計」には、公明党・共産党・社民党支持を含む。

表 23 「成長」志向－「環境」志向－単純集計表 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
A に近い	66 (17.6)	81 (22.3)	86 (21.7)
どちらかという A に近い	107 (28.5)	113 (31.1)	131 (33.1)
どちらかという B に近い	136 (36.3)	104 (28.7)	116 (29.3)
B に近い	60 (16.0)	57 (15.7)	45 (11.4)
無回答	6 (1.6)	8 (2.2)	18 (4.5)
合計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

次に、経済成長優先か、環境保護かという対立軸である。結果は、松山市では「環境」志向（「B に近い」「どちらかという B に近い」）の人がやや多く、逆に新居浜市・宇和島市では「成長」志向（「A に近い」「どちらかという A に近い」）の人がやや多かった。両者は拮抗している。

新居浜市・宇和島市では、自民党支持者層、民主党支持者層、支持政党なし層という順に、「環境」志向の人が増えていく。松山市も同様なのだが、民主党支持者層と支持政党なし層における「環境」志向の人の比率はともに60%を超え、ほぼ同じ比率である。

経済成長か、環境か、という対立軸に関しては、自民党支持者層がもっとも「成長」志向寄りであり、支持政党なし層が逆に最も「環境」志向寄りであるといえる。民主党支持者層が、その中間的な位置にある。

政治参加への志向性に関して、「B に近い」「どちらかという B に近い」を選択した人は「参加」志向、「A に近い」「どちらかという A に近い」を

表 24 支持政党「成長」－「環境」[人(%)]

	松山市		新居浜市		宇和島市	
	成長	環境	成長	環境	成長	環境
自 民 党	111 (61.7)	69 (38.3)	104 (63.8)	59 (36.2)	125 (65.7)	65 (34.2)
民 主 党	20 (33.8)	39 (66.1)	43 (59.7)	29 (40.3)	33 (50.8)	32 (49.2)
支持政党なし	27 (32.2)	57 (67.8)	31 (36.9)	53 (63.1)	34 (42.5)	46 (57.5)
合 計	171 (46.7)	195 (53.3)	192 (54.5)	160 (45.5)	213 (57.1)	160 (42.9)

注)「合計」には、公明党・共産党・社民党支持を含む。

選択した人は「協力」志向としてみた。この質問に対する回答は、どの市でも B を選択する人の比率が高かった。

松山市・新居浜市・宇和島市でも、自民党支持者層で「協力」志向の比率が高く、民主党支持者層と支持政党なし層で「参加」志向が7割～8割に達しているという傾向は同じである。この対立軸に関しては、民主党支持者層と支持政党なし層とが同じ傾向を示している、それとは逆の傾向を自民党支持者層が示しているといえる。この対立軸は、保革自己認識と関連があるとしたが、政党支持との関係からもそのようなことがいえるようである。

これまでのところをまとめてみたい。「保守－革新」という対立軸は、蒲島らが主張するように、安全保障など伝統的な争点を構成要素として、有権者の意識段階ではいまだ存在している。政党支持の面からみても、この軸上には、支持政党なし層を真ん中にはさんで、保守側に自民党支持者層、革新側に民主党支持者層がいるという構造が観察される。ただし、自社対立の55年体制よりは、

表 25 「協力」志向－「参加」志向－単純集計表 [人(%)]

	松山市	新居浜市	宇和島市
A に近い	40 (10.7)	42 (11.6)	45 (11.4)
どちらかという A に近い	102 (27.2)	98 (27.0)	114 (28.8)
どちらかという B に近い	134 (35.7)	129 (35.5)	127 (32.1)
B に近い	91 (24.3)	86 (23.7)	95 (24.0)
無回答	8 (2.1)	8 (2.2)	15 (3.8)
合計	375 (100.0)	363 (100.0)	396 (100.0)

表 26 支持政党「協力」－「参加」[人(%)]

	松山市		新居浜市		宇和島市	
	協力	参加	協力	参加	協力	参加
自 民 党	102 (57.3)	76 (42.7)	87 (53.4)	76 (46.6)	117 (61.6)	73 (38.4)
民 主 党	13 (22.0)	46 (77.9)	18 (25.0)	54 (75.0)	12 (17.9)	55 (82.0)
支持政党なし	19 (22.9)	64 (77.1)	21 (25.3)	62 (74.7)	22 (27.1)	59 (72.9)
合 計	142 (39.0)	222 (61.0)	138 (39.1)	215 (60.9)	158 (42.1)	218 (58.0)

注)「合計」には、公明党・共産党・社民党支持を含む。

全体的に保守寄りに移行しているといえるだろう。「協力－参加」という対立軸は、「保守－革新」対立軸の1つの構成要素ないしは補完する要素といえる。政党支持の分布でみると、自民党支持者が「協力」側にあり、民主党支持者と支持政党なし層は「参加」側でほぼ重なった位置に存在している。

「成長－環境」という対立軸は、「保守－革新」とは別次元に存在する対立軸だと考えられる。この対立軸に関しては、自民党支持者が「成長」側に、支持政党なし層が「環境」側にあって対峙している。民主党支持者がこの中間的立場を示している。「環境」という新しい価値観を最も高い比率でもっているのは、支持政党なし層なのである。ただし、この対立軸が、有権者をどの程度の強さで拘束するような軸なのかはあきらかではない。

小野耕二が主張するような「大きな政府－小さな政府」という対立軸がどのような形態で存在しているのかは、明確ではなかった。政党支持に関しても、この対立軸は明瞭な構図を示すことがなかった。もっとも、現在の日本の主要政党である自民党も民主党も、その内部にこの対立軸の両翼を抱え込んでいるとされ、そのような政党事情も不明瞭な結果につながったのかもしれない。

今回は調査票の制約があり、もっと多くの尺度を用意して、政治意識の構造を明らかにするということが行えなかった。そのようなことに関しては他日を期すとして、とりあえず試論として結果を提示してみた。

注

- 1) 蒲島郁夫・竹中佳彦『現代日本人のイデオロギー』東京大学出版会，1996，P.87～133
- 2) Poguntke, Thomas 1993 *Alternative Politics*, Edinburgh University Press.
- 3) Kitschelt, Herbert 1994 *Transformation of European Social Democracy*, Cambridge University Press.
- 4) 小野耕二『転換期の政治変容』日本評論社，2000，P.188～190
- 5) 3都市の比較

	人口 (人)	高齢化 率(%)	第1次産 業就業者 比率(%)	第2次産 業就業者 比率(%)	第3次産 業就業者 比率(%)	製造品 出荷額 (万円)	財政力 指数 (2004年度)
松山市	514,937	19.1	3.0	22.8	73.7	39,193,512	0.71
新居浜市	123,952	24.3	2.0	36.7	61.2	57,522,993	0.69
宇和島市	89,444	28.6	22.2	18.8	58.9	3,560,189	0.45

* 製造品出荷額は『工業統計』（2005年）より，他は『国勢調査報告』（2005年）より

* 本稿は，2006年度松山大学特別研究助成の研究成果の一部である。